

2017年度 常務委員会メール会議議事録

期 間:2018年6月6日(水)19時～6月13日(水)17時

議 題

1. 2017年第5回常務委員会の議事録(案)の確認
2017年第5回常務委員会の議事録(案)を確認し、承認した。
2. 次年度編集委員会体制の確認
2017年第5回常務委員会での承認分に加え、新たに、山本順司会員(北海道大学総合博物館)、土井 徹会員(富山大学)に編集委員会のメンバーとして加わって頂くこととした。

2017年度 常務委員会メール会議議事録

期 間:2018年6月12日(火)16時～6月18日(月)17時

議 題

1. 地学教育学会のホームページ・メールニュースレター上で、地質学会主催巡検(地質学会非会員参加可)を広報することの是非について
上記広報を認めることとした。

2018年度 第1回 常務委員会議事録

日 時:2018年7月17日(火)18時～20時

場 所:(株)国際文献社(高田馬場会議室)

出席者:久田健一郎, 高橋 修, 伊藤 孝, 上栗伸一, 小森次郎, 清水政義, 中林俊明, 米澤正弘(計8名)

議 題

1. メール会議議事録の確認
2017年度第5回常務委員会(2018年5月28日開催)以降に行われた2回のメール会議の議事録を確認し、承認された。
2. 役員選挙結果について
「役員選挙についての細則」(2016年10月8日一部改訂)に基づき、2018年4月1日時点で会員原簿に記載されている正会員に被選挙権がある旨公示し、2018年6月22日(金)(必着)で投票が行われた。開票は選挙管理委員会のもと2018年6月26日に実施した。以下、結果である。

○会長(任期2018・2019年度):久田健一郎 得票159票

*有効投票数163票/無効票0票

役員選挙についての細則12.1「会長は、有効投票数の過半数を得たもの」を適用。

○評議員(任期 2018～2020 年度)

*有効投票数 162 票／無効票 0 票

役員選挙についての細則 12.2「評議員は、支部ごとに有効得票数の最も多いもの1名、ただし、関東支部は、有効得票数順に3名まで」を適用。

北海道・東北: 川村教一

関東: 五島政一・松森靖夫・米澤正弘

中部: 戸倉則正

近畿: 澁江靖弘

中国・四国: 岡本弥彦

九州・沖縄: 三次徳二

○監事(任期 2018・2019 年度): 土橋一仁 得票 160 票

*有効投票数 160 票／無効票 0 票

役員選挙についての細則 12.3「監事は、有効投票数の過半数の信任を得たもの」を適用。

3. 各賞の受賞者選考等について

2018 年度地学教育功労賞・渡部景隆奨励賞に関しては、推薦・申請がなく、いずれも候補者なしとなった。2018 年度優秀論文賞、教育実践優秀賞の選考の経過・結果について、学術奨励賞審査委員会より報告を受けた。

・2018 年度 優秀論文賞: 吉本直弘・松尾亮太郎「雨滴の大きさの違いを捉える雨音の簡易観察装置の開発」地学教育, 第 70 巻, 第 12 号, 1-13 頁.

・2018 年度 教育実践優秀賞: 澤田一彦・松本伸示・村田 守「滋賀県琵琶湖西岸の後背地の地質が異なる隣接2河川流域の教員研修プログラムの開発—一人間生活との関わりを通して—」地学教育, 第 70 巻, 第 4 号, 131-144 頁.

また、現在の枠組みに加え、新たに若手を対象とした論文賞の新設に関する提言を踏まえ、今後、検討していくこととした。

4. 渡部景隆賞の今後の方針について

2018 年度の同賞において副賞を減額した経緯について情報の共有を行った。また、他賞とのバランスも踏まえ、当面の間は副賞を3万円とすることとした。

5. 2017 年度事業報告(案)および会計報告(案)について

2017 年度事業報告(案)および会計報告(案)について精査し、8月の大会時に開催される評議員会・総会に向けた準備作業を行った。

6. 2018 年度事業計画(案)および会計予算(案)について

2018 年度事業報告(案)および会計予算(案)について精査し、8月の大会時に開催される評議員会・総会に向けた準備作業を行った。

7. 平成 30 年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第 72 回全国大会茨城大会の準備状況について
2018 年 7 月 7 日に開催された日本地学教育学会茨城大会第 3 回実行委員会の結果を踏まえ報告を受けた。準備状況は順調であり、かつ発表件数等はほぼ例年の水準であること確認した。
8. 2018 年度常務委員会の構成について
日本地学教育学会々則を踏まえ、2018 年度常務委員会委員の決定過程の確認を行った。
9. 2019 年度以降の全国地学教育研究大会・日本地学教育学会全国大会の開催地について
地学教育学会の全国大会については、2019 年度秋田大会までは会場が決定済みである。2020 年度に関しては回答待ち、2022 年度は 9th GeoSciEd Conference 開催地との関連も踏まえ決めていくこととした。
10. 小学生のための地学オリンピック「チャレンジ地球」後援について
小学生のための地学オリンピック「チャレンジ地球」の後援の可否について検討した。同事業の趣旨を鑑み、後援は妥当という結論となった。
11. 常務委員会の会場について
2018 年 10 月以降の常務委員会の会場について意見交換を行った。結果、優先順位に基づき、打診していくこととした。
12. シニアボランティアについて
提案のあったシニアボランティアについて意見交換を行った。今後、他の事例の調査結果を踏まえること、懸案となっている支部活動との連携等を含め、検討していくこととした。
13. 学会の財政健全化について
2018 年度会計、2019 年度予算等を踏まえ、今後の財政健全化について意見交換を行った。結果、役員選挙の電子化、総会委任状の電子化、会報の発行形態・頻度等々、継続的に議論していくこととした。
14. 会勢について
会勢を確認し、意見交換を行った。入退会状況は以下のとおりである。
入会者・正会員 神徳瑞綺(聖徳学園取手聖徳女子中学校・高等学校)、野崎真史(太田市立太田高等学校)、菅原久誠(群馬県立自然史博物館)
退会者 石井 巖、糸目真也、茨木孝雄、柏倉善三、川村真一、田中基義、堤 保臣、中村泰久、二上政夫、三上孝雄、小林辰至、三谷忠生、清水直貴、増渕佳子、栗原淳一、水島明夫、柴田直子

報告・話題提供

1. 各種常置委員会から
編集委員会の新体制、および『地学教育』71 巻 1 号の内容・準備状況についての報告があっ

た.

2. その他

久田会長より, 2018年度の本学会海外巡検について, 準備・応募状況の紹介があった. また, 地球惑星科学委員会・地球惑星科学人材育成分科会・地学・地理学初等中等教育検討小委員会における最近の議論の動向について紹介があった.

次回, 2018年度第2回常務委員会は, 2018年9月13日(木), (株)国際文献社高田馬場会議室にて開催予定.